

専徳寺報

第469号

令和4年9月16日発行

浄土真宗本願寺派
専徳寺

〒740-0044 岩国市通津2764
☎0827-38-1124 FAX38-1000

① <http://sentokuji-iwakuni.net/> 岩国 専徳寺 検索
② 動画ちゃんねる「ひかりといのちきわみなき」



専徳寺納骨堂受付中

秋讃仏会法要

御案内

亡き人を偲びつつ、お浄土からの経を聞く。感染対策にとめつつ、秋の法座をつとめます。ご参詣お待ちしております。

日程

9月29日(木) 昼 1時半〜3時半
30日(金) 昼 1時半〜3時半

ご講師 本願寺布教使

加藤 一英 師 (大崎上島町)

- ・ マスク着用をお願いします。
- ・ 検温をしておこしください。
- ・ 飲み物は、ご持参ください。
- ・ 本堂(50名)の席が一杯になっても、庫裏でスクリーンにてお聴聞ができます。

● 参拝セット(念珠・聖典・式章・聴聞カード)
どうぞお持ちください。

※秋の展示会・戦没者追悼法要は
今年も中止します。



如来・人・言葉 127

月愛三昧

藤枝 宏寿

中秋の名月のころ、ふと思い出すのが「月愛三昧」という涅槃経の言葉です。

今から2500年ほど前、インドの王舎城でアジャセ太子が自らの欲望を満たすために、父のピンピサーラ王を殺害。その後、王になったアジャセは過去の悪業を深く悔いるようになり、罪の意識から心を病み、やがて身体じゅうに皮膚病が生じ、激しい痛みを苦しみます。

何人もの大臣らが王に罪はないと詭弁で慰めようとするが、アジャセ王の慚愧は深く、病は治らない。ギバという忠節な大臣が「王には慚愧心があるのだからお釈迦様はお会いくださるだろう」と案内する。そのとき「慈悲に満ちた釈尊は、アジャセのために月愛三昧(という瞑想)にお入りになり、大いなる光明を放たれた。すると不思議なことに、その清涼な光が王をつつみ込むように照らす。すると全身を覆っていた皮膚病はすっかり癒え、身体の痛みも消え去った」と経に書いてあります。

この月愛三昧のポイントは二つあります。

一つには月の光が万物にやさしく降りそそぐように、釈尊の慈悲はあらゆる人びととの業苦に注がれるので

あるということ。今一つは、この慈光に救われるのは、わが罪業に対して慚愧・懺悔している者であるということです。

オウム真理教・サリン事件の張本人麻原彰晃も残虐な悪業を犯しましたが、懺悔・反省は無かったそうです。釈尊の慈悲を仰ぐどころか、自らが釈尊の生まれ変わりでなどと妄想していた。とても月愛三昧の談ではないでしょう。井上義浩死刑囚は、慚愧して刑を受けたといいます。法友によって仏の慈光に遇うていたからです。

如来の大悲は、アジャセなど特殊な悪業の人にだけ注がれるものではありません。あらゆる者が如来の光を蒙って、罪業のわが身と慚愧するとき、その大悲の光が心の底に至りとどき、救いとなるのです。

秋彼岸
しみみおもう
身のおろか

(木村意相)



ついたち礼拝(月のはじめをお寺から)

10月1日(土)

午前9時より45分間。

正信偈和讃・法話。

寺内だより

み仏にいだかれて〔葬儀勤修〕



おめでとうございます

法物下附式(入仏式)

● 8月26日 御三尊

お給仕の喜び、一人に存じます。
市内 村田 京子様

● ご恩を偲び〔法事勤修〕

(7月30日〜9月9日)

インターネット公開 本堂外陣中央天井画

本堂外陣中央の天井画を撮影し、専徳寺のHPにて公開しました。108種類、150枚あります。240年間、法座参詣の方々を見守ってきた花々です。よろしければご覧ください(一番多かったのはどの花かご存じですか?)。

〔視聴方法(3通り)〕

- ① QRコードを読み込む。
- ② HPのトップ画面にある「本堂外陣天井画」をクリック。
- ③ HPの「検索」にて「天井画」と検索。



QRコード



【ヤマホトトギス】



【マツムシソウ】



【ヒバリ】